

輸血治療に「救われた」

笠井アナ講演 献血の大切さ訴え

フリーアナウンサーの笠井信輔さん(60)が13日、土浦市中村西根の常総学院高(豊谷恵校長)で献血をテーマに講演した。がん闘病時に受けた輸血治療のありがたみを語り、「皆さんの貴重な献血で救われた」と献血の大切さを生徒たちに伝えた。

笠井さんはフジテレビを退職後、2019年9月からフリーに転身。2カ月後に血液のがん「悪性リンパ腫」のステージ4と診断された。4カ月半の入院を経て「完全寛解」となり仕事を復帰した。



闘病体験を交え献血の大切さを語る笠井信輔さん＝土浦市中村西根

「大量出血で血液を必要としている人よりも、がん患者などで輸血が必要な人の方が多い」と、幅広い献血の使い道を解説した。

輸血を受けたことで笠井さん自身は現在献血できなくなっている。血液型が割合の少ない「A型Rhマイナス」で、希少な血液を使うことに負い目も感じたという。ただ、入院時に看護師から「若い頃の献血が自分に返ってきたと思えばいい」と言われ、気持ちが楽になったと説明。「情けは人のためならず。若いうちから献血を」と求めた。

県南地域にはつくば市に献血ルームがあり、漫画が読めるジュースも無料だと紹介。「とてもきれいで素晴らしい環境。安心して行ってみて」と訪問を勧めた。

講演会は、日本赤十字社が昨年9月に開始した「献血推進プロジェクト」の一環で、献血が減少傾向にある若年層に啓発しようとする実施した。

生徒会長の中島ティーンズさん(17)は、生徒を代表して感謝の花束を笠井さん handed し、「社会のために行動できる大人になりました」と伝えた。講演終了後、中島さんは「父親は献血していたが、自分は勇気がなくてできなかった。次の休みは献血に行きたい」と話した。

(黒崎哲夫)